



制度局

選叙令

3751



選叙令ヲ云ハル旨趣



治國經世ノ基本ハ政體ニあり政體ノ明ナル君
臣ノ一致ニあり故ニ明君ハ賢相ヲ選ビ賢相ハ良
佐ヲ撰ビ良佐ハ才能アル百僚ヲ撰ビ官ニ任シ職
ニ任ラシメ庶務ヲ掌ラシメテ以テ政理ヲニシクス賢
相ニアラザレバ良佐ヲ選フ事能ハス良佐ニアラザレ
バ百僚ノ才能ヲ選フ事能ハス政理ノ基本ハ賢
良才能ヲ選ブニあり薦挙選叙ノ法ニシテ

大正十一年
限侯爵印

賢良才能ヲ選フ事能ハスルニ選叙令ヲ設ケル
所以カク賢相良佐ト雖モ天下ノ廣キ人衆
多キ能ク一人ノ知ルベキニアラス我カ知リタルハ
舉シ知ラサルハ曳ラスノミナラス人ノ舉ルモ疑
フニ至ルコトニ選ニ衆議ヲ預ツ可キナリ
銓選ノ任ヲ長官ニシテ女子ヲ衆議商量セサ
ル氏ハ愛憎ニヨリ毀譽言テリ自然銓選精ナラス
遂ニ人材登庸ノ道
廣ク知識ヲ世界

求ルルノ大趣ニ意ニ下
銓選ノ法先ツ其身ノ經歷行實ヲ審明シ其
人ノ意趣方向ヲ辨晰シシメ又文案ヲ立テ
其旨趣ヲ録述セシメナホ又疑問討論ヲ加ヘテ
始メテ可否ヲ決スヘシ
コレニ依テ其德行才用勞効ノ三類ヲ知其頭
スル所ノ官ニ舉クヘシ
即チ選叙令ヲ述作スル左ノ如シ

選叙令大畧

勅任官

左右ノ大臣

叡旨勿論ナレト若シ御下問ノ時大納言

冬議及ヒ從三位相當以上ノ官員ニ議シテ

其可否ヲ撰ミ奏聞スルシ

大納言

叡旨勿論ナレト

下問ノ時ハ大臣ノ

銓議ニ依テ撰ツ、ナレハシ但シ大臣私ニ其可

否ヲ冬議等ニ商議ニ向ハルモ可ナリ

冬議

勅旨勿論ナレト御下問ノ時ハ大臣大納言

熟議シテコレヲ撰ミ

天裁ニ依テ決定スヘシ

以上三職

自餘ノ勅任官及ヒ海陸軍ノ少將

勅旨勿論ナレトモ若御下問時ハ三以上ノ高
議致送シテ内一人具保証ニ立テテ
勅裁ニ依テ決案スベシ

四位相當勅任官

以上ノ三職及ヒ所管ノ長官次官等熟議
詮選シ其所管ノ次官次官ノ内一人保
証ニ立テテ奏聞シテ

勅裁ヲ乞フヘシ

外ノ事ノ詮選ハ兵部省ノ長官次官
ナリ議ニ立テテ具保証ニ立テテキナリ

五位六位相當奏任官

太政官ノ官員ハ辨官トシテ銓選シ内一人保
証ニ立テテ三職ニ申シ官裁ノ上奏聞シテ任
スヘシ

自餘ハ所管ノ長官以下四位相當ノ位以上

大正判官ニテ銓選シ一人保証ニ立テテ官裁
ヲ乞フヘシ

判任官

太政官ノ官員ハ辨官銓選シテ内一人保証
立シ三職ニ申テ任スヘシ

自餘ハ所管ノ判官以上銓選シ内一人保証

立テテ長官ニ申シテコレヲ任シ長官ハ其次第

保証人等ヲ記載シテ申送スヘシ

但シ諸藩ノ判任ハ此例ニ非ス暫ク別例トスヘシ

總テ薦挙銓選精ナラス其人其任ニ堪ヘス過失

ハ罪等アル高議ノ預ル人ノ過失ニシテ保証

スル者ハ殊ニソノ過失ノ罪律ヲ受クヘキナリ

勅任官奏任官ノ保証ニ立テテ上ツリタル証書ハ

三職ニテコレヲ封シ上ニ某選挙ノ保証捺印シテ職

務ニ預ル辨官ニ收藏シ置カシムヘシ

太政官ノ判任ノ保証書ハ辨官ニ收藏シ自餘

判任ノ保証書ハソノ所管ノ長官コレヲ收藏シ

置クヘシ

士族若シクハ草莽中ヨリ諸官省判官以下

從四位奏任官以上ニ始メテ薦奉スル者其ノ
官者性質行狀ヲ熟知セル者無クシテ保証ニ難キ
モアル可シコレハ三職辨官及ヒ諸官省ノ長官
次官等但シ薦奉スル者會集シ其人目ヲ處
スル処ノ趣意方向ヲ論辨セシム且ツ其旨趣ヲ
自書セシメテ又粗語スルアル更ニ討論ラカヘテ
ヨク其性情行實及ヒ長短スル処ヲ極メテ適當
官ニ任スヘシ此高議預ル者即チ保証者ナ

レハ若シコノ選ニカナハザル事アラハ高議ニ預リシ
者皆其過失ノ罪ヲ謝スヘキナリ

判任官ト雖モ如メテ選舉スル時ハ同上ノ法ニ
據テ考試銓選スヘキナリ

年中ニ六度選舉任叙ノ定日ヲ定メシ

選舉ノ定日ハ二月四月六月八月十月十二月

廿五日トシ任叙ノ定日ハ三月五月七月九月

十一月十五日トス假令ハ二月廿五日ニ高議選舉シテ三月五日官ニ

右太政官以下省其臺寮司ニ至ルマテ一日一般
タルヘシ但シ臨時急務ノ選舉轉任等ハ此例ニ
拘ハラス即時ニ高議銓選ニ任叙スヘシ

庚午

四月

制度



